

取組4 浅羽海岸地域の保全

取組の評価 2.3 一部に改善を要する

< 取組4 の基本方針 >
1 海岸地域全体の保全
2 海岸浸食対策の推進

3 松枯れ対策の推進

【取組の目的】 海岸浸食対策と沿岸地域の松枯れ対策などを推進し、美しい白砂青松の環境を保全します。

『 取 組 』 に 係 る 社 会 の 動 向 と 本 市 の 現 状

1 社会の動向

- ◎ 治水や利水及び発電などを目的としたダムが建設され、河川から海岸へ流出する土砂の絶対量が減少したことにより、海岸浸食が全国各地で起こっている。遠州灘沿岸の砂浜は、主に天竜川から運ばれてくる土砂によって形成されているが、天竜川への多数のダムの築造や河床の砂利採取により、また、海岸の土砂の供給量が減少したことや海岸における構造物の建設、漂砂の連続性が遮断されたことによる急激な海岸浸食が進んでいる。
- ◎ 近年の海岸浸食や松枯れ被害によって、危機的な状況に直面しており、この状況を放置すれば、砂浜、砂丘、海岸林は、海岸防護等の機能を失い、津波や高潮などによる大きな被害が予測される。また、海岸浸食や松枯れ被害の長期化は、生活の場となっている陸地まで失うことも憂慮されている。
- ◎ 平成24年の民間事業者の寄付金を契機として、県は浜松市沿岸部の防潮堤整備を計画し、平成25年6月には磐田市が中東遠地域沿岸部の防潮堤整備に向けた建設促進基金創設についての検討を表明するなど、県西部沿岸部で津波対策事業が活発になっている。また、平成25年6月に静岡市三保の松原（海岸）が世界文化遺産に登録され、防災面以外にも、景勝地や憩いの空間として注目が集まり、海岸の景観保全や愛護活動の重要性が増している。

2 本市の現状（主な取組）

- ◎ 平成17年度から21年度までの5年間行った「グリーンウェーブキャンペーン」で植樹した約17,300本の抵抗性クロマツの下草刈りや間伐、枝打ちなどの松林管理を、地域住民をはじめ、市民、企業ボランティアとの協働で実施している。
- ◎ 毎年7月の海岸愛護月間に合わせ、市民や企業、海岸利用者、浅羽中学校生徒など約1,400人が参加して、砂浜でのペットボトルなどのゴミ収集を行っている。
- ◎ 平成18年に、本市をはじめ遠州灘沿岸の6市で構成する『遠州灘沿岸保全対策促進期同盟会』を設立し、河川や海岸の管理者である国や県への積極的な要望活動を行っている。県が国内初の取り組みとして福田漁港付近で行っているサンドバイパスシステムが平成24年に試運転を始めたが、機器の不具合により停止していることから、早期の試運転再開と本格稼働を求めるとともに、松枯れ対策への予算確保などの要望活動を行っていく。

『 取 組 指 標 』 の 分 析 と 評 価 結 果

1 取組指標の評価 【※ 実績値は、各年度末における最新数値】 評価結果の平均値（A） 1.0

<評価基準> 4：達成率 ≥ 100％・前年比伸び率 ≥ 0％ 3：達成率 ≥ 100％・前年比伸び率 < 0％ 2：達成率 < 100％・前年比伸び率 ≥ 0％ 1：達成率 < 100％・前年比伸び率 < 0％

番 号	指 標 名	項 目	現状値(計画)	H22	H23	H24	H25	H26	H27
1	浅羽海岸環境保全対策のボランティア参加者数【人】	目 標 値	－	2,640	2,640	2,730	2,820	2,910	3,000
		実 績 値	2,900	2,550	2,640	2,585			
		達成率 伸び率	－ －	96.5 ▲ 12.0	100.0 3.5	94.6 ▲ 2.0			
		評 価	－	1	4	1			
2		目 標 値							
		実 績 値							
		達成率 伸び率							
		評 価							
3		目 標 値							
		実 績 値							
		達成率 伸び率							
		評 価							
4		目 標 値							
		実 績 値							
		達成率 伸び率							
		評 価							
【指標に影響を与えた主な要因】									
グリーンウェーブキャンペーンによる植樹活動が平成21年度に終了し、平成22年度以降は下草刈りだけとなり参加者が減少している。 新規団体が参加したこともあり、一定の参加者数は確保している。									

2 指標で表すことが困難な成果

市民や企業等が協力して、ゴミ清掃（海岸愛護事業）や下草刈り（グリーンウェーブ事業）を行うことで、海岸を親しみ大切にする心を育むとともに協働の輪を広げている。

『 主 要 事 業 』 に 係 る 事 業 評 価 表 の 評 価 結 果

1 主要事業の評価

番号	主 要 事 業 名	H24 事業費 【千円】	事業評価表の評価結果			
			有効性	効率性	廃止の影響	
			4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり	
1	河川・海岸愛護事業	14,588	3	3	3	
2	松くい虫等防除事業	1,156	4	3	4	
3	松林保全管理事業（グリーンウェーブ事業）	3,918	3	3	4	
4	生活環境保全ゴミ清掃事業	474	4	4	4	
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
評価結果の平均値（B）		3.5	3.5	3.3	3.8	

『 取 組 』 の 有 効 性 ・ 必 要 性 ・ 緊 急 性 の 評 価 結 果

1 取組の有効性等の評価 評価結果の平均値（C） 2.3

番 号	評 価 項 目	H22	H23	H24	H25	H26	H27	コ メ ン ト 欄
1	有 効 性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	4	3	3				◎ グリーンウェーブキャンペーンは、市民自らが清掃に参加する形で設立したもので、市民協働の先駆けとして存在意義は大きく、自らの海岸であるとの認識が生まれ、愛護意識の向上に極めて有効である。 ◎ 海岸浸食対策について、市や市民等の対策だけでは限界があり、国内初の取り組みとして県が施工するサンドバイパスシステムの早期本格稼働が期待される。
2	必 要 性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	3	3				◎ 海岸は、防災、景観、憩いの場など多面的な機能を有する貴重な資源である。草刈りやゴミ清掃など地道な活動を通じて、愛護の心を育み、成長させていくことが必要である。そのため、県、市、市民や企業等がそれぞれの役割を分担し、協力して保全活動を実施していかなければならない。
3	緊 急 性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	3	1	1				◎ 海岸浸食や松枯れ被害は危機的な状況に直面しており放置すれば、近い将来、砂浜や海岸林は海岸防護等の機能を失うことになる。遠州灘沿岸保全対策促進期成同盟会により、サンドバイパスシステムの早期本格稼働を県に要望するとともに、市民等と市のパートナーシップにより、グリーンウェーブ活動や海岸愛護活動等の裾野を広げ、全市及び全国的な関心（機運）を高め、海岸保全活動を促進させていく必要がある。

『 取 組 』 の 総 合 評 価 と 今 後 の 展 開 方 向

1 総合評価 <評価基準> 4 ～ 3.6：順調 3.5 ～ 3：概ね順調 2.9 ～ 2：一部に改善を要する 1.9 ～ 1：全体的に改善を要する

取 組 の 評 価			コ メ ン ト 欄
2.3	一部に改善を要する		◎ 将来にわたり親しみ愛されるよう、美しい白砂青松の海岸を守っていくためには、市民、NPOや企業とのパートナーシップによる取り組みが非常に重要である。より多くの人たちが、海岸愛護事業やグリーンウェーブ事業に参加する仕組みを講じていく必要がある。また、地域やNPO等の活動を支援し、市民等の関心を高めるための新たな取り組みも検討していく必要がある。 ◎ 急激な海岸浸食により、地震による津波や台風による高波などの災害時の安全度が低くなっていることから、引き続きサンドバイパスシステムなど必要な対策を講じるよう国や県に働きかけていく必要がある。
	各評価結果の平均値		
取組指標の 評価結果（A）	主要事業の 評価結果（B）	有効性等の 評価結果（C）	
1.0	3.5	2.3	

2 取組の基本方針別 今後の展開方向 <展開方向> 拡充（順調） 拡充（改善必要） 継続推進 縮小

番 号	取 組 の 基 本 方 針	H22	H23	H24	H25	H26	H27	今 後 の 展 開 方 向
1	海岸地域全体の保全	継続推進	継続推進	継続推進				将来にわたり海岸地域を保全していくため、地域、NPOや企業とのパートナーシップを強化し、保全活動参加者を増加させていく必要がある。
2	海岸浸食対策の推進	拡充	継続推進	継続推進				環境や漁業活動に配慮し、サンドバイパスの早期の本格稼働などを県に要望していく。
3	松枯れ対策の推進	継続推進	継続推進	継続推進				松林の健全な保全のためには、地域が松林を地域財産として守っていくという意識を育んでいくことが大切である。引き続き地域と協力して保全活動を実施するとともに、県に松枯れ対策の充実を求めていく必要がある。
4								
5								
6								

【その他留意事項】

松くい虫等の防除事業では、飛砂や塩害などの防止機能をもつ防風林の保護をすることで、地域の保全に繋がるなどの公益性を持っていることから、地域と行政が一体となって事業を推進していく必要がある。